

科目名	経済学 I	担当者	楠谷 清	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することが出来るが、この講座では、主に消費者（家計）、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。								
授業目的・到達目標	中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるに初級の経済理論の修得し、社会で生じる価格決定や価格の変動について、受講生が説明できることを目標とする。								
履修条件	なし								
授業方法	テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。スライド（パワー・ポイント）を使用して講義を行う。								
成績評価	種別	割合	評価方法						
	定期試験	80%	筆記試験は経済学の重要概念が習得されているかを判定する。授業中に解説された基本的な項目・事項について理解すること。						
	平常評価	20%	レポート提出、授業への参加度によって評価する。						
教科書	年	出版社	書名				著者名		
	2015年	弘文堂	『Next 教科書シリーズ 経済学入門』				山口・楠谷編著		
	備考								
参考書	山崎昭著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）、竹内靖雄著『経済思想の巨人たち』（新潮文庫）、その他、授業中に適宜紹介する。								
オフィスアワー	水曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取る） 研究室（4号館3階432） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp								

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読む。 教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的にできるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。
2	事前学習	教科書 第1章の「1. 経済と経済学」「2. 経済循環の構造」「3. 市場経済・計画経済・混合経済」の部分を再度読み、経済と経済学の関係、経済用語の概念を考察する。
	授業内容	【経済学の基本問題と経済学の課題1】 経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。経済循環の構造を学習し、消費者（家計）、企業、政府との財や金の流れから経済主体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、第1章末の問題（1）と（2）を自分なりの説明をまとめる。
3	事前学習	教科書 第1章の「4. 市場機構の仕組み」を読み、市場機構の大枠を考察する。
	授業内容	【経済学の基本問題と経済学の課題2】 市場とは何か、財の価格と生産量どのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学習して市場機構の仕組みを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、需要曲線や供給曲線が移動すると価格と生産量どのように変化するか、作図してみよう。
4	事前学習	教科書 第1章の「5. 経済学の歴史」を読み、歴史に残る著名な経済学者の時代的背景や学説を考察する。
	授業内容	【経済学の基本問題と経済学の課題3】 経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートや配付資料を確認して、スミス、マルクス、ケインズの経済学の特徴について自分なりの説明をまとめる。

5	事前学習	教科書 第2章の「1. 消費者行動」「2. 効用関数と無差別曲線」を読み、内容を考察する。
	授業内容	【消費者行動の理論1】 消費者行動とは何か、また、消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて学習する。
	事後学習	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題(1)と(2)を解いてみる。
6	事前学習	教科書 第2章の「3. 最適消費の決定」「4. 所得変化と価格変化の効果」を読み、内容を考察する。
	授業内容	【消費者行動の理論2】 予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足最大化できるか最適消費の決定を理解する。さらに、消費者の所得が変化や財の価格が変化が、消費者の財購入にどう影響するか学習する。また、財の価格変化と消費者の購入量変化から消費者の需要曲線を導出する。
	事後学習	講義ノートや配付資料を確認して、章末にある問題(3)と(4)を解いてみる。
7	事前学習	教科書 第3章の「1. 生産者の行動」「2. 生産関数」を読み、内容を考察する。
	授業内容	【生産者行動の理論1】 生産者の行動とは何を意味するのか学習する。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を学習する。
	事後学習	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題(1)を解いてみる。
8	事前学習	教科書 第3章の「3. 等量曲線と費用最小化」「4. 費用関数」を読み、内容を考察する。
	授業内容	【生産者行動の理論2】 企業が生産要素を購入する費用に限りがある。その費用で購入できる生産要素の組み合わせを表す等費用線を学習する。等費用線と等量曲線から要素投入の最適条件を学習する。さらに、生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を学習する。
	事後学習	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題(2)について自分なりの説明をまとめる。
9	事前学習	教科書 第3章の「5. 最適生産の決定」「6. 供給曲線」を読み、内容を考察する。
	授業内容	【生産者行動の理論3】 最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について学習する。また、財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線を導出する。
	事後学習	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題(3)を自分なりの説明でまとめる。
10	事前学習	教科書 第4章の「1. 市場の分類」「2. 市場の均衡」を読み、内容を考察する。
	授業内容	【競争市場均衡1】 市場の分類と各市場の相違点を学習する。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法を学習し、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析、について学習する。
	事後学習	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題(1)と(2)を自分なりの説明でまとめる。
11	事前学習	教科書 第4章「3. 余剰分析」「4. 比較静学」を読み、内容を考察する。
	授業内容	【競争市場均衡2】 経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を学習する。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因を学習し、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを考察する。
	事後学習	講義ノートと配付資料を確認し、章末の問題(3)を自分なりの説明でまとめる。
12	事前学習	教科書 第5章「1. 独占市場」「2. 完全独占市場」を読み、内容を考察する。
	授業内容	【不完全競争市場1】 独占市場とはどのような市場をいうのか学習する。完全独占市場における独占企業の特徴を完全競争市場における企業と比較して学習する。
	事後学習	講義ノートと配付資料を確認して、完全競争市場に在る企業の個別需要曲線と独占企業の個別需要曲線の相違について自分なりの説明をまとめる。
13	事前学習	教科書 第5章の「3. 価格差別」「4. 独占と資源配分の効率性」を読み、内容を考察する。
	授業内容	【不完全競争市場2】 価格差別の概念を学習。また、独占が資源配分の非効率をもたらす、結果として、社会に損失をもたらすことを余剰概念を用いて理論的に学習する。
	事後学習	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題(1)と(2)について自分なりの説明でまとめる。
14	事前学習	教科書 第5章の「5. 不完全競争と独占的競争」「6. 寡占市場とゲームの理論」を読み、内容を考察する。
	授業内容	【不完全競争市場3】 不完全競争理論と独占的競争理論とはそれぞれどのような状況を想定した理論であるのか学習する。また独占度の測定理論であるラーナーの尺度を学習。さらに、寡占市場の企業戦略を分析するゲームの理論を学習する。
	事後学習	囚人のジレンマ理論が、社会的取引や国家間の取引のどのような場面の分析に応用できるか、自分なりの説明をまとめる。
15	事前学習	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、ミクロ経済学の体系を考察する。
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	初回からの教科書の各章と授業ノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。